

## 東京大学名誉教授称号授与伝達式

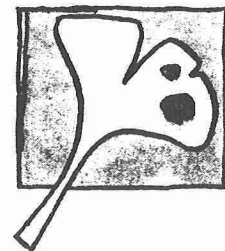
平成9年5月21日付けで東京大学名誉教授の称号が次の方に授与されました。

◎ 井野正三	(特性物理学)	平成9年3月31日停年退官
◎ 安楽泰宏	(植物科学)	平成9年3月31日停年退官
◎ 田隅三生	(物理化学)	平成9年3月31日停年退官
◎ 鈴木増雄	(基礎物性学)	平成9年3月31日停年退官
◎ 脇田宏	(地殻化学実験施設)	平成9年3月31日停年退官
◎ 小平桂一	(国立天文台)	平成6年3月31日国立天文台へ

6月11日(木)に理学部長室において、東京大学名誉教授の称号を授与された上記先生方(小平先生は海外出張により欠席)をお招きし、伝達式が催されました。

また、式終了後、上野東天紅において、先生方を囲み、

壽榮松研究科長、小間、黒岩両評議員等関係者が出席して、懇談会が行われ、退官後のご活躍の様子等ご近況の報告や、在任中の思い出話などに、花が咲きました。



## 理学系研究科長（理学部長）と理学部職員組合との交渉

1997年5月19日に壽榮松研究科長、柚原事務長と、また7月2日に壽榮松研究科長、小林事務長と理学部職員組合（理職）の間で定例研究科長交渉が行われた。主な内容は以下の通りである。

### 1. 職員の昇格・昇給等の待遇改善に係わる問題について

#### 1) 技術職員

5月の交渉で、理職は技術職員の昇格を要求する際に、少しでも有利な材料を提供するため、技術職員が関わった仕事に対して、謝辞を載せるなど教官の配慮を要望した。研究科長は、この件は従来から教授会で要望してきており、今後も要望していく、と回答した。また7月交渉で、理職は6月の国大協総会で文部省の技術職員待遇改善検討会が「中間まとめ」で出した「技術職員に『職』を置く提案」が示され、人事院では10月の来年度級別定数に向けての取り組みを始めるとの情報を紹介し、理学部として対応が遅れないよう、十分な情報収集と的確な対処を要求した。また理職は、行（二）歴のある職員が、在級年数の不足によって4級・5級昇格が出来ないことに関し、格別の配慮を求めた。研究科長・事務長は、努力をすると回答した。

#### 2) 図書職員

5月の交渉で、理職は事務職員から図書職員への定数振替について再度質問し、振替については人事記録に載らず、別の書類に記載される事がわかった。前回の科長交渉において、事務長がすでに昨年4月に振替済みと本人に通知したのは勘違いであったと述べた。理職は、振替の時期が本人が問い合わせをしない限りわからないのは不便だと主張したが、事務長は昇格の要求調書作成時にはきちんと調べて載せるので、問題はないと回答した。また理職は、図書職員の専門員・専門職員のポストについて、専門職員の前例はまだないものの、文部省の裁量で現行制度の枠内でもつけることが出来ること、事務職員の場合は人事院へ上申しなければならないのとは異なり、比較的簡単に格付けできる可能性があること、一般的には専門員・専門職員等の上位ポストの獲得は概算要求事項であるが、運用の仕方取得できる道もあることから、これらのポスト獲得に努力して欲しいと要望した。これに対し事務長は、図書職自体が専門職なので、専門職員は難しいと答弁した。7月の交渉で、理職は図書職員の5・6級昇格改善要望書を提出し、特に行（二）からの振替で在級年数が不足する職員への特別の配慮を要望し、研究科長・事務長も理解を示した。

#### 3) 事務職員

5月の交渉で、理職は以前より要求してきた生物学科

事務主任の6級昇格について、さらなる努力を求めた。

### 2. 教室系事務・図書職員の組織化問題

5月の交渉で、理職は教室系のみを対象とした組織化案は、定員削減も予定されている現状では、教室系の事務負担だけが増える危険があり、理学部全体の事務組織について、抜本的な改革案を作成すべきである、と再度要求した。これに対し研究科長は、事務全体の業務を整理することで負担を軽減する方針である、と回答した。また事務長は、定員削減と今回の組織化は別の問題であり、定員削減はユニット数に応じて消化されるものであること、中央事務はすでに組織があるので、今回の組織化案には含めていないこと、教室系事務の組織化は、事務職員の全体的な待遇改善がねらいであること、事務合理化の結果として、中央事務の定員が削減されることもありうることを回答した。さらに理職は、異なる専攻が同じ掛になる場合には、職員の負担がきわめて大きくなる問題を取りあげ、組織化案の実質的な運用は困難であることを主張した。これに対し研究科長は、現場での混乱は避けたく、物理的な建物配置などの問題から、当面は現状を尊重し、徐々に新しい体制に変えていく、との方針を述べた。7月の交渉で、理職は本問題が来年度の概算要求をめざし、7月教授会で基本方針を決定する方針であるのに対し、当事者である教室事務職員には1回しか説明がなされていないこと、それをうけて組織化案に対する問題点を文書で提出したのに返事がなされていないなど、各教室事務室への問題点のフィードバックが、きわめて不十分であることに抗議し、早朝の説明会開催を求めた。研究科長は7月教授会において最終報告が承認された後、職員に説明会を行う予定である、と回答した（7月23日に開催）。

（後日理職は教室系事務組織検討委員会に対し、7月9日付けで要望書を提出した）。

### 3. 教官への任期制について

大学教官等の任期に関する法律が、6月の国会で成立したことをうけ、理職は本研究科での対応を尋ねた。これに対し研究科長は、任期制の目的は人事交流であり、本研究科は企画委員会による2年前の調査結果で、十分な流動性があるとしており、一律に任期制を導入した場合には、弊害の方が大きいと考える。したがって本研究科では早急に任期制を導入する考えはない、と回答した。

### 4. その他

勤勉手当、特昇について、本年度より2号俸特昇もできるようになったことをうけ、理職は本研究科での方針を尋ねた。これに対し事務長は、従来通りに行う方針である、と述べた。

## 人事異動報告

### (講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
地 殻	助教授	中井俊一	9.6.1	配置換	地震研助教授へ
”	教授	長尾敬介	9.7.1	”	岡山大教授より
物 理	助教授	松尾泰	”	転任	京都大助教授より
”	教授	高瀬雄一	9.7.16	採用	

### (併任)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物 理	教授	新田勝利	9.6.1	併任	本務：北海道大学

### (助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
生 化	助手	石丸聡	9.6.30	辞職	米国ロックフェラー大学へ
物 理	”	花田和明	9.7.1	昇任	九州大助教授へ
”	”	蓮尾昌裕	”	”	京都大助教授へ
”	”	中 暢子	”	採用	
生 化	”	西住裕文	”	”	
化 学	”	星名賢之助	9.7.16	”	
”	”	市田光	”	休職更新	7.7.16～10.1.15

### (職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
事 務 部	事務長	柚原義久	9.7.1	昇任	工学部事務部長へ
”	”	小林銀一郎	”	配置換	宇宙線事務長より

### 訂正・お詫び

前号(29巻1号)に掲載いたしました職員人事異動に間違いがありましたので訂正し、お詫び致します。

原子核 助教授(誤) 関口雅行 9.4.1 昇任 原子核研究所助教授より

↓

教授(正)

原子核 技官 大城幸夫(誤) 9.4.1 配置換 原子核研究所より

↓

大城幸光(正)

## 博士（理学）学位授与者

平成9年6月23日付学位授与者（1名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
論文博士	化 学	椎 名 勇	抗腫瘍活性化合物タキソールの不斉全合成

平成9年6月30日付学位授与者（1名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	物 理 学	鈴 木 一 郎	重心系エネルギー300GeVにおける微小×領域での陽子構造関数の研究

平成9年7月14日付学位授与者（6名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
論文博士	物 理 学	黒 河 賢 二	エルビウム添加光ファイバ増幅器におけるフェムト秒光ソリトンの増幅伝搬特性に関する研究
〃	地球惑星物理学	澤 田 宗 久	中央日本の浅間火山で観測されるB型地震の震源メカニズムとN型地震の起源
〃	化 学	瀬 戸 孝 俊	圧電体及び強誘電体の界面における透過や触媒等の物理的及び化学的作用に対する外部電場の影響
〃	〃	繁 政 英 治	アンジュレーター放射光を用いた二原子分子の対称性分離K殻光吸収スペクトル
〃	生物化学	伊 藤 涉	人工抗体ライブラリーの試作とその解析
〃	〃	伊 藤 隆	NMRを用いたGDP結合型およびGTP結合型ヒトc-Ha-Rasタンパク質の解析